

5 集約型まちづくりを実現する良好な都市基盤の整備について

(国土交通省)

【内容】

- (1) 都市機能の集積と多核連携型の持続可能なまちづくりに資する、都市の「コンパクト＋ネットワーク」化を促進する連続立体交差事業、街路事業、土地区画整理事業、再開発事業などの一体的な都市基盤の整備に関して、十分な財政支援をすること。

特に、知立駅周辺での土地区画整理事業、再開発事業、アクセス道路整備などのまちづくりと連携し、リニア開業効果を広域的に波及させ、後押しする名鉄知立駅付近連続立体交差事業を促進するため、国庫債務負担行為を活用しながら十分な財政支援をすること。

- (2) 良好な都市基盤の整備にあたっては、緑あふれる魅力的で住みよい、安全なまちづくりを進めることが必要であり、緑とオープンスペースの中核となる都市公園の整備に関して、十分な財政支援をすること。

特に、本県唯一の天然湖沼を有し、西三河地域で初めての県営都市公園となる油ヶ淵水辺公園（4月29日第1期開園）の整備の促進に関して、引き続き十分な財政支援をすること。

(背景)

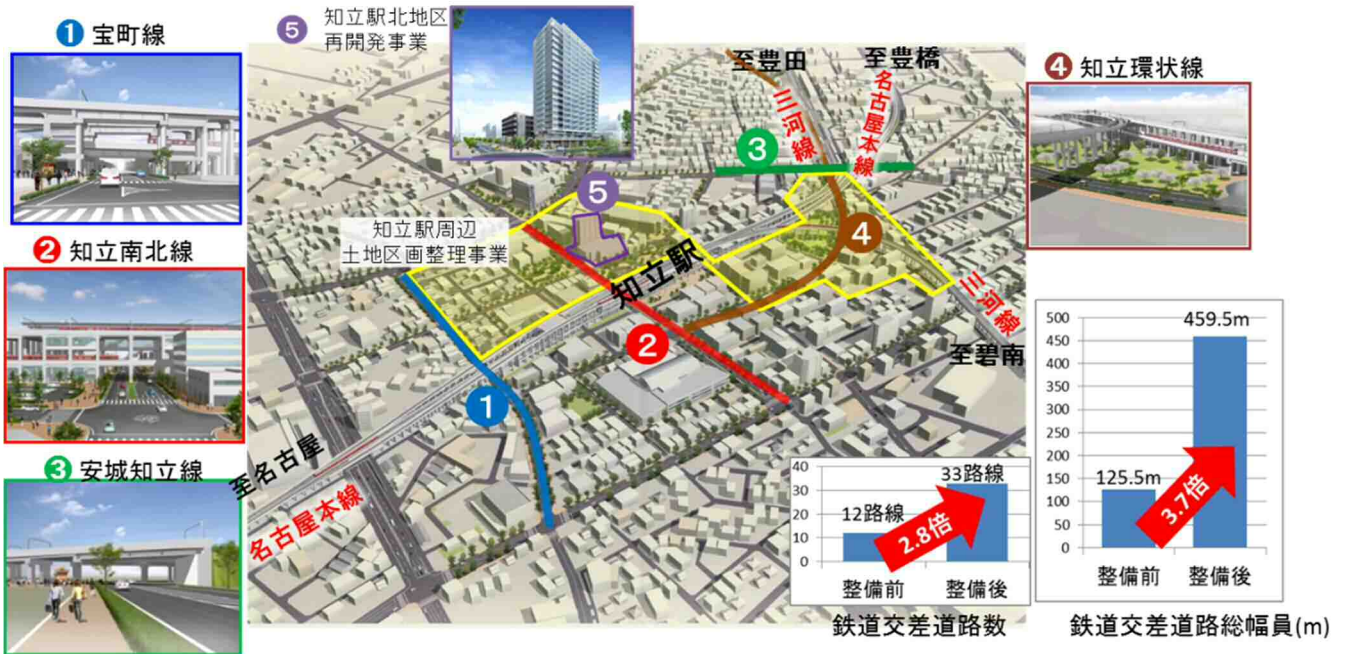
- 本県においては、持続可能な集約型のまちづくりを進めるため、都市部では、主要駅周辺の中心市街地や生活拠点となる地区などに商業・業務、医療・福祉等の都市機能を集約するとともに、快適な歩行空間の整備を進めるなど、都市の再構築を進めていく必要がある。あわせて、これらの集約型都市が公共交通などの交通軸により結ばれた多核連携型のネットワークの形成を図っていく必要がある。本県では名鉄知立駅付近及びJR半田駅付近の2箇所で連続立体交差事業を実施しており、土地区画整理事業などと一体的に都市基盤の整備を行っている。
- 特に、自動車産業を中心に世界的なモノづくりの拠点として、愛知を牽引する三河地区の交通結節点である知立駅周辺は、鉄道により市街地が分断され、慢性的な交通渋滞が発生するなど市街地の発展に支障を来している。また、都市基盤も脆弱であり、まちの活力の低下を招いている。そこで、連続立体交差事業（鉄道高架化）、土地区画整理事業などの一体的な整備によって、鉄道で分断された市街地をひとつにするとともに、利便性の高い交通ネットワークと三河地区の玄関口としてふさわしい集約拠点の形成を図る。加えて、名鉄知立駅付近連続立体交差事業は、リニア開業効果を広域的に波及させ、後押しする事業であり、平成31年度からは高架本体工事が最盛期を迎えるため、これまで以上の財政措置を図る必要がある。
- また、良好な都市基盤の整備にあたっては、身近な自然として、また、都市住民の憩いや交流の場、多様なレクリエーションの場、災害発生時の避難場所や防災拠点として必要不可欠な緑とオープンスペースの確保を図り、中でも、その中核をなす都市公園の整備を進めていく必要がある。

○ 特に、西三河地域で初めての県営都市公園となる油ヶ淵水辺公園においては、本県唯一の天然湖沼である油ヶ淵の貴重な水辺環境を活かした公園整備により、自然豊かな憩いの場、環境学習の場を創出することから、引き続き整備を進めていく必要がある。

○ 平成30年4月29日に、第1期開園区域として碧南市側のEエリア「水生花園」の一部、約1.7haと安城市側のBエリア「自然ふれあい生態園」の一部、約5.2haの合計約6.9haを供用した。

(参 考)

◇知立駅周辺の市街地の一体化・まちの活性化



◇リニア効果の後押し

知立駅:リニア名古屋駅と世界的なモノづくり集積地である豊田市方面とのアクセス拠点駅



◇油ヶ淵の貴重な水辺環境を活かした公園整備

(油ヶ淵水辺公園)

